

オランダ在住高校生の医療体験実習

オランダ在住の高校生2名(斉藤えみなさん、せりなさん姉妹)が、高校の早期職場体験実習先として宮崎大学医学部での実習を希望されたため、平成29年10月23～24日の2日間、医療人育成支援センターが実習受入とコーディネートを行いました。

日常生活では、父親(イギリス人)とは英語、母親(日本人)とは日本語、友達とはオランダ語で話しているとあって、二人とも日本語がとても堪能でした。



1日目は附属病院血液浄化療法部とリハビリテーション部での診療見学、医学科5年生の医療面接実習の見学を行いました。2日目は医学生心音聴診実習への参加、消化器病センターと救命救急センターでの診療見学後、実習中に一緒だった医学生との交流会を行いました。医学生の臨床実習と同水準の内容でしたが、2人とも熱心に取り組まれました。帰国後、お二人から、「実習では実際の検査を見たり、手技を模擬体験させてもらったりと、貴重な経験をさせてもらいました。先生方もとても優しく、病院の雰囲気もとても良かったので、将来はぜひ宮崎大学で医師として働きたいと思いました。」という嬉しい感想をいただきました。(小松・舟橋)



ちゅらSim Step up FD ～集中コース～に参加してきました



医療人育成支援センターでは臨床実習で「医療安全」の演習を行っています。

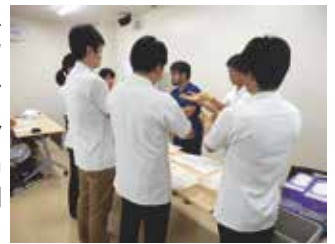
より良い演習にするために、平成30年2月18日(日)、琉球大学医学部附属病院敷地内にある「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」で開催されたFDに参加してきました。

「患者安全とシミュレーション」をテーマに、実際の事例を解析し、シナリオトレーニングに落とし込むまでを実践的にグループワークで行いました。学んだことは宮崎大学での演習時に採り入れていますが、復職支援にも応用できる内容もあり、セミナーの成果を還元していきたいと思えます。(船元)



平成29年度 医学科4年生臨床実習前実技実習

平成29年10月30日からスタートするクリニカル・クラークシップⅠ実習オリエンテーションが10月27日(金)に行われました。今回は、医学科4年生105名に採血実習及び手術室入室説明を行いました。



この実習で臨床実習中に採血を要する症例に遭遇した際、比較的スムーズな手技施行が期待されると思います。また、手術室への入室も、男性教員が女子学生を指導していくとの現場からの要望もあり、今回より事前説明を行うことと

しました。

当日は各診療科の教育医長の先生方を中心に、多数の先生方に指導を行って頂きました。ありがとうございました。4年生の皆さんが、スムーズに臨床実習に参加できていることを期待しております。(中島)



がん患者の療養支援に向けて 病院看護師と訪問看護師が共に学ぼう!

～地域と病院をつなぐシミュレーション研修～

平成30年3月14日(水)、病院・訪問看護師を対象とした研修を開催しました。今後、がん患者の在宅療養が増加することが見込まれており、地域包括ケアシステムの構築に向けて、在宅医療を支える医療と介護の連携は必須の課題です。今回、訪問看護ステーション管理者を対象とした面接調



査を元にフィードバックを行い、「抗がん剤の最新の治療の動向」(中島医師/講義)や「在宅療養場面におけるシミュレーション」(長野医師/演習)を実施しました。

参加者からは、「化学療法の目的が明確になり看護のポイントを再認識できた」、連携場面では、「アセスメントしたことを整理して医師に伝える重要性が理解できた」などの感想がありました。(山本)

第1回 宮崎県 病院内メディカルラリー開催!



宮崎県初の病院内メディカルラリー

平成30年3月17日(土)に宮崎大学医学部において第1回宮崎県 病院内メディカルラリーを開催しました。メディカルラリーと聞いて内容が思い浮かぶ方は少ないかもしれませんが。メディカルラリーとは、チェコ共和国で始まった救急医療の判断や技術を競うコンテストのことです。一般的なメディカルラリーは「救急現場」を想定したのですが、病院内メディカルラリーは病院の中で起こる様々な問題を想定したシミュレーションです。したがって、対象となる職種は救急医だけではなく、病院で働く全ての職種となります。

県全体の研修医や若手看護師を対象とした病院内メディカルラリーを開催することで、若手医師、看護師の教育を盛り上げ、県内外に宮崎県の医療人育成の環境をアピールし、一人でも多くの研修医、看護師、医学生が宮崎県に集まるきっかけになればと思い、今回の開催を企画しました。県全体の研修医、看護師を対象とした大規模なメディカルラリーは宮崎県初の試みであり、私たち宮崎大学医学部医療人育成支援センター(開催ディレクター:長野健彦、小松弘幸)と宮崎県臨床研

修・専門研修運営協議会が主催となり、さらに宮崎県医師会、宮崎県地域医療支援機構や県内から多数の病院医師、看護師の協力を得て無事開催することができました。

メディカルラリー スタート!

県全体から参加者を募り、9つの病院から研修医19名、看護師33名の計52名が参加し、6つのチームに編成しました。初めて出会うメンバーばかりの即席チームですので、まずはチーム単位でミニゲームに挑戦し、楽しみながらチームワークを高めてもらいました。そして宮崎大学医学部附属病院卒後臨床研修センター研修医・後庵 篤 先生の堂々たる選手宣誓を合図に、5つのシナリオシミュレーションへの挑戦が始まりました!

今回の5つのシナリオシミュレーションは医学部内の5つの場所にStation A~Eを展開し、患者急変対応だけではなく幅広い分野からテーマを選び、実際の診療に役立つ学びの多いシナリオを用意しました。



<チーム・シャイ>



<Team Gods>



<マンゴー>



<ジャイアンツ>



<チーム・一心>



<竜太とゆかいな仲間たち>

高度な知識・技術・態度と チームワークを求めるシナリオ!

Station Aは「院内で発生した外傷」をテーマとしたシナリオでした。参加者の皆さんは院内で転倒した設定の模擬患者を発見し、頸椎損傷に配慮しながら病室に搬送し、その後の初期評価と治療を行いました。実際に床に倒れている患者を搬送するのは一苦労です。頸椎保護を念頭におきながらの搬送に悪戦苦闘しながらも、チーム一丸となり皆さん真剣な表情で挑戦していました。



Station Bは「院内での報告とコンサルテーション」をテーマとしたシナリオでした。消化管出血の患者を発見した看護師から研修医、患者を診察した研修医から専門医と報告、コンサルテーションをしてもらいました。忙しい診療

の中で短時間に適確に目的を伝えるはなかなか難しいものです。「SBAR」という報告手法にそった適確な報告にチャレンジし、日頃培ったコミュニケーション能力を存分に発揮してもらいました。

Station Cは「院内での心肺蘇生とその振り返り」をテーマとしたシナリオでした。院内で発生した心肺停止患者にチームで心肺蘇生を行い、その処置の内容についてチーム内で振り返りのカンファレンスをしてもらいました。心肺蘇生のような危機的な状況での治療をチームで行った場合、メンバーの中には患者を救命できなかったことに対して強い後悔を感じる方もいます。そのようなメンバーの感情に配慮しながら振り返りを行う方法や重要性を体験してもらいました。



Station Dは「病状説明と検査説明」をテーマとしたシナリオでした。患者、家族の感情にいかにか共感するか、いかに分かりやすい平易な言葉で説明するかがポイントとなるシナリオでした。模擬患者と家族役スタッフの真剣な演技によって、あた

かも実際の説明室にいるかのような深刻な雰囲気の中で、参加者の皆さんも真剣に病状説明をしていました。普段なかなか病状説明について正しい教育を受ける機会は少ないと思いますが、このシナリオで皆さんの気づきがあったのではと思います。



Station Eは「アナフィラキシー」をテーマとしたシナリオでした。病院内で突然発生する怖いアナフィラキシーの対応をしてもらいました。病院内の急変でよく想定される病態ですが、いざ目の前で起こるとついつい慌ててしまい、正しく対処するのは意外と難しいものです。参加者の皆さんは慌てながらもチームワークを発揮し、適切な病態評価と処置を迅速に行い、見事に救命していました。

栄えある総合優勝チームは!

午前9時から始まった病院内メディカルラリーは6チームが5つのStationをラリー形式でチャレンジし、午後4時には無事全てのチャレンジが終了しました。そして、第1回開催の栄えある総合優勝チームは、宮崎県立日南病院と潤和会記念病院の混合チームである「チーム・一心」に決定しました!優勝チームには賞状と記念の盾が授与され、皆さんとっても嬉しそうでした!これを糧に日頃の診療に更なる磨きをかけて頂ければと思います。

優勝には届かなかったものの、全てのチームがそれぞれの知識・技術を十分に発揮し、高いチームワークで困難なシナリオに挑んでくださいました。きっと多くの参加者がたった1日でたくさんの事を学んでくれたと思います。参加者からは「また次もぜひ参加したい!」という声をたくさん頂き、大盛況のメディカルラリーとなりました!

最後に、今回のメディカルラリー開催には多数のスタッフのご協力を頂きました。特に県立延岡病院救急科の長嶺 育弘先生、県立日南病院内科の早川 学先生、古賀総合病院内科の松浦 良樹先生、宮崎生協病院の眞川 昌大先生、県立宮崎病院救急科の岩谷 健志先生にはシナリオ作成や当日のシミュレーションの進行において多大なるご協力を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。(長野・舟橋)



優勝 <チーム・一心>

平成29年度医師国試験対策Review講義開催

例年、医師国家試験対策の講義を行っていましたが、本年度は医療人育成支援センターにて、この講義の取りまとめを行い、平成29年12月12日から平成30年1月11日の間に、全19講義を行いました。宮崎大学の各診療科の医師が講師を務め、過去の頻出問題・出題が予想される問題などを絞り込み、解説を行いました。また、新規問題対策として、各分野の新しい話題、治療法も含めました。

近年では、臨床実習中に経験すると思われる臨床の現場に即した問題も出題されており、採血（静脈、動脈）、筋注・皮下注、心電図、導尿、点滴&点滴ポンプ、腰椎穿刺、中心静脈穿刺の各手技を、臨床技術トレーニングセンターのシミュレータや器具などを使用し、実際に体を動かしながら試験対策を行いました。

前年の学生の参加数は全14講義で延べ277人でしたが、今回は全19講義で延べ458人でしたので、より多くの学生に参加していただけた。次年度以降も、各講師と連携を図りながら、より充実した国試験対策講義が行えるよう努力したいと考えております。（中島）



～先輩からのメッセージ～

宮崎大学医学部医学科（平成29年度卒業生） 當瀬 雅大

今年度より国試のガイドラインが改訂されました。受験後の私の感想は疾患とその治療の一対一対応の暗記ではなく患者さんの状態を評価して治療法を選択する傾向が強くなったと感じました。また輸液製剤の種類を選択するなど治療に関しても実臨床に即した知識が求められるようになりました。

国試対策として毎年12月頃にレビュー講義があります。レビュー講義は実臨床で活躍される先生方から生の知識や考え方を学んだり、学生自身が学びを深めて出てきた疑問点をぶつけたりするなど様々な活用ができる機会です。今年度は事前にアンケートをとって学生の要望と講義内容をマッチさせたり、採血など実技の復習講座があったり、大変役立ちました。学生にはぜひこのレビューを積極的に活用していただき、変化する国試に対応する力をつけてほしいと思います。

12月12日(火)		神経（塩見）	肝胆脾（永田）
12月13日(水)	救急（畠中）	呼吸器（松元）	
12月14日(木)		精神科（船橋）	消化管（安倍）
12月15日(金)	公衆衛生（黒田）	小児科（木許）	
12月18日(月)	画像診断（平井）	膠原病・感染症（宮内）	
12月19日(火)	内分泌・代謝（米川／上野）	循環器①（井手口／鬼塚／石川）	
12月20日(水)	産婦人科（松澤）	血液（幣）	
12月21日(木)	腎臓（佐藤）	循環器②（鶴田／北）	
1月9日(火)		耳鼻咽喉・頭頸部（奥田）	
1月10日(水)	実技指導（長野）	実技指導（長野）	
1月11日(木)		眼科（中馬）	

看護部研修 ～死後のケア研修～

平成30年1月22日～24日、本院看護部との共同で、新規採用看護師を対象に、「死後のケア」のシミュレーション研修を開催しました。研修では、ご遺体に見立てたシミュレータを模擬病室に設置し、指導担当者が患者の家族や、医師・看護師役を演じて、臨終の場面からお見送りまで、より臨床の現場に近い場を設定し、実施しました。受講者は、患者の尊厳を守ることや、家族に寄り添うことなど、多くの気づきや学びを得ていました（川崎）



医療人育成支援センターホームページ

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryoujin/>

医療人育成支援センターFacebook

<https://ja-jp.facebook.com/iryoujinikusei/>



《HP》



《facebook》

宮崎大学医学部医療人育成支援センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地

TEL:0985-85-8305 FAX:0985-85-7239 E-mail:ikyoku@med.miyazaki-u.ac.jp